



成功への道。幸福への道。

〇〇 〇〇

私は小さい頃から、何かに夢中になったり有名人を好きになったりすることがありませんでした。小学生の時の卒業アルバムに書いた将来の夢は、小学生らしからぬ「主婦」です。成長するにつれ、進学、就職といろいろな決断をしなければならないときも、「好きなことややりたいことがない。」ことが悩みでした。進学や就職することが前提なのですから、今から思えばとても恵まれており、贅沢な悩みです。ですが、当時は進むべき道が決まらず、自分はどうすべきなのか悩んでいたのです。結局、私はいつでも人の意見やその時の状況に身を任せて人生を歩んできたように思います。

「仕事は一所懸命にやっていたら必ずおもしろくなる。それが成功への道であり、幸福への道である。」という確信を一生説き続けた本多静六という人物がいます。日本初の林学博士で、東京の日比谷公園をはじめ、日本の国立公園のほとんどの設計を手掛け、「日本の公園の父」と呼ばれている人です。晩年は大学教授も務めた本多ですが、もともとは森林の研究をしたくてこの道に入ったわけではありませんでした。本多静六の生家は、大豪農として知られる家でしたが、本多がまだ幼いとき、多額の借金を残して父親が亡くなり、家は没落してしまいます。本多は書生として他家に住み込みながら勉学に励みました。その折、家の主人から紹介されたのが、学費のかからない「山林学校」でした。自分の目の前に偶然現れたその道を本多は選び、そして、目の前の与えられたことを一所懸命にやり続けることで、みずからの人生を切り開いていきました。(渡部昇一・中山 理著「人間力を伸ばす数珠の言葉」より)

私は、本多の「仕事は一所懸命にやっていたら必ずおもしろくなる。それが成功への道。幸福への道。」という言葉にすごく納得した思いがしました。仕事もそうですし、何事にも「自分の置かれた場所ですべきことを一所懸命に取り組んでいけば、必ずおもしろくなる。」と考え、今後も過ごしていきたいと思っています。



出会い

〇年〇組 担任 〇〇 〇〇

これまでの人生を振り返ってみると、私は多くの人と出会ってきました。友達、先生、同僚・・・その多くの出会いが私という人間に大きく影響をしていることを、今回このコラムを書くことを通して改めて再認識しました。

「サッカーのコーチ」

私は4歳から現在までサッカーを続けています。しかし、私はサッカーというスポーツが大嫌いでした。疲れるし、よくわからないし、自分より上手な友達と比較されているのも嫌でした。練習も「めんどくさい」とズル休みすることもありました。そんな私を変えるきっかけになったのはやはり「出会い」でした。小学6年生のとき、新しいコーチが私たちの担当になりました。若いそのコーチは「look around .think before」が口癖でした。周りを見ながら状況を理解し、何をしたらいいかを自分で考え自己決定しなさいと言ってきました。その頃はダッシュやひたすらボールを蹴る訓練のような練習が多かったのですが、答えがないプレイの選択を自分たちで考える練習に切り替わっていきました。自分で考えプレイすることの面白さに気づき、サッカーの世界に没入していきました。そして今でも私はサッカーを続けています。

「中学校の先生」

中学3年生の担任の先生はとても個性的な先生でした。今では問題になってしましますが、生徒に焼肉を奢るようなそんな先生。学級通信で私たちの学んでいる様子を共有しながら褒めてくれる、とても温かく情熱的な先生です。

私は中学2年生まで、どこか受動的でした。「いま」の学校生活が面白くないのと感じていた私は、何か面白いことないかなあと面白くないことを他の要因のせいにしていました。そんな私を変えてくれたのがその先生との「出会い」です。その先生の口癖は「今がつまらないなら自分で面白くすればいい」でした。今まで、「誰かが何かしてくれるのでは？」と考えていた私はハッとしました。自分の行動を振り返り、今の自分には何ができるだろう？と考えるようになりました。

この二つの「出会い」に共通することは、自分で考えることの大切さです。人は他者と関わりながら、自己決定を繰り返し成長していきます。他にもここには書ききれない多くの出会いが私という人格を形創っています。状況や環境が人間を育てる。人は関わり合いの中でこそ、深く学び、成長していけることを実感した私の大切な思い出です。

多様性が大切な社会、変化の激しい社会を生き抜いていく子供達を育てていくためにも、学校では他者との「出会い」を演出し、他者との関わりを大切にしながら、学び、育って行って欲しいなあと思っています。

人は、人と関わらずには生きていけない。より幸福な社会、人生を目指して一人一人が出会いを、他者を大切にしながら学ぶことは極めて重要だと考えます。